

| SWOT | 強み | 弱み |
|------|---|--|
| 内部環境 | <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン会議システムで講師・主催側の経験がある職員が複数名いる。 ● 比較的穏やかな職員が多く、雰囲気が悪くなることなく意見の合意に至りやすい。 ● キャンパスが複数あるので蔵書や役割を補完しあえる。 ● 物理資料だけでなく電子図書館サービスも提供している。 ● 小さな組織のため、職員どうし互いのことを良くも悪くもよく知っている。 ● 他部署の職員との壁が低い。 ● 比較的マンパワーがある。 ● 他図書館との横のつながりがある。 ● 仕事に対する意識、興味関心が高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 資金不足。 ● オンラインツールの知識が足りない。 ● 燃料費等の高騰で予算がひっ迫している。 ● 人的資源が少ない。 ● 電子資料が不十分で、来館の必要がある。 ● 図書館員だけでは決められないことが多い。 ● 学外で利用できるツールがほぼ無い。 ● 組織がそれなりに大きい（動きが鈍くなるくらい）。 ● covid-19についてはトラブル防止のため徹底的なトップダウン形式だったため、図書館独自の対応が難しかった。 ● 施設設備の老朽化。 |
| | 機会 | 脅威 |
| 外部環境 | <ul style="list-style-type: none"> ● 現役館長はじめ、歴代館長は、図書館に対して大きな熱意のある人が多い。 ● 外部研修等は積極的に利用できる。 ● 他大学図書館とのつながりのある職員が複数いた。 ● 他部署の職員とのつながり。 ● 教務担当との情報共有。 ● 研修会、会議等のオンライン化が進んだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 電子ジャーナル等が高騰しており、資金がついていけない。 ● 図書館に価値を見出す教員が多数派ではない。 ● 大学運営側の図書館に対する評価や理解度。 ● 著作権法の改正による影響が読みにくい。 ● 図書館の価値を会話ができるスペースに見出している学生が多い。 ● 上の立場の人の理解を得難い。 ● 学外アクセスについて、あまり上層部が積極的ではない。 |